

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192800074		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア人間グループホーム		
所在地	埼玉県入間市宮前町9-2		
自己評価作成日	令和8年2月5日	評価結果市町村受理日	令和8年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和8年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりに寄り添った支援を心掛けています。日常生活支援に加え、ご入居者様からご要望のあった行事やレクリエーションなどを定期的に取り入れています。音楽や工作、料理が得意な職員も多く、ご入居者へ楽しみの時間を多く提供しています。地域との交流も盛んで、毎年施設主催の地域交流会の実施や外部ボランティアによりイベントが実施されています。社内の教育制度も充実しており、定期的な内部研修が実施されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西武池袋線「入間市駅」北口から徒歩約15分の住宅地に位置し、隣接する公園など環境に恵まれた2階建て・2ユニットのグループホームである。季節行事やレクリエーションに力を入れており、外部ボランティアの協力を得て音楽コンサートやフラダンス教室等を開催している。地域住民とともにインドネシア文化交流会や地域の祭り、防災訓練にも参加し、地域との関係づくりに取り組んでいる。本社による体系的な教育体制のもと、職員は継続的に研修を受講している。理念に基づく目標を掲げ、共通の意識を持って一人ひとりに寄り添った支援を実践している。利用者の要望を踏まえた行事の実施や、職員の特技を活かした活動も取り入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の掲示、新規職員には施設理念やグループホームの役割についての研修を受けています。	法人理念および事業所理念は施設内の目につく場所に掲示している。新規職員は施設理念やグループホームの役割について研修を受けている。新年度には理念に基づいた目標を掲げ、職員が共通認識のもと実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一昨年度より定期的に地域交流会を実施しています。今年度は地域の方を招待しインドネシア文化交流会を実施しました。隣の公園で遊んでいる地域の子供が施設のトイレを借りなど開放的な環境を整えています。	地域交流会を開催しており、今年度は地域住民を招いてインドネシア文化交流会を実施した。地域からの参加も得られ、交流の機会となっている。あわせて、地域の祭りや防災訓練にも参加し、地域の一員として日常的な交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護マイスターという社内資格制度もあり、職員が専門的な知識を学んでいます。地域の方の見学相談も随時実施しており、認知症ケアの相談を受けアドバイスをすることもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を実施し、施設での取り組みや運営状況を報告しています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て実施しており、事前に家族へアンケートを送付して意見を募り、会議で報告している。寄せられた意見を踏まえ、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政や民生委員、自治会長様などを運営推進会議へご招待し運営状況等を報告しています。	生活保護受給者の入居に関しては、担当部署と定期的に情報交換を行っている。必要な報告や情報提供を行い、協力関係の維持に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束予防委員会・研修を実施しています。お一人おひとりの生活状況を把握し身体拘束の予防に努めています。	身体拘束適正化に関する委員会を3か月に1回開催し、年2回の研修も実施している。研修後には理解度確認を行い、日々のケアを振り返る機会としている。拘束を行わないケアへの理解を深める取り組みを継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会・研修が実施されています。不適切ケア等の発生時には個々の職員への指導を実施しています。虐待発見時の報告ルートも明確にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内法定研修で全職員が権利擁護について学ぶ機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約、ご解約時にはご入居者やご家族様へ丁寧な説明を心掛け実施しています。ご不明点や不安ごとなども日頃から随時ご相談に乗れる環境を整えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のお知らせを送付する際にアンケートも同封しご意見をいただいています。運営推進会議へ欠席された関係者へも実施報告書を郵送しています。	面会制限は設けておらず、家族の面会時や運営推進会議でのアンケートを通じて意見や要望を聴取している。改善可能な事項は速やかに対応している。行事予定を事前に知りたいとの要望を受け、今年度は年間行事予定の送付を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の拠点会議に加え、施設サービス計画書更新やご入居者様の状態変化に合わせカンファレンスを実施しています。半年に1度、職員との個別面談も実施しています。	毎月フロア会議を開催し、職員が意見を出しやすい環境を整えている。提案については検討のうえ、可能なものから対応している。年2回の個人面談でも意見を聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートの活用や社内資格制度の実施により各職員が目標を持って働ける職場環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合った階層別の研修が実施されています。毎月の法定研修もあり定期的に学ぶ機会が多くあります。特定技能スタッフの教育体制も整えており働きやすい環境です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入間市内の「グループホーム会」のネットワークがあり、イベントのお知らせや空室状況などを共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前よりご本に様と面会をさせていただき、困りごとやご要望の傾聴を行い安心して施設生活をスタートできるようサポートしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からも困りごとや施設へ入居してからのご希望などを伺いサポートしています。初期ではこまめに連絡を取り合い生活のご様子を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご入居様が望む生活をサービス内容へ取り入れています。に活かしている。状況によりご家族様の協力や外部サービスの利用も依頼しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴を大切にし、お一人おひとりに合わせたサポートを柔軟に行っています。掃除や洗濯などご本人の能力に合わせた自立支援も実施しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が出来ない時期もあったが、電話で話をしたり、写真の提供や日頃の様子を伝える等、会えない不安感の軽減に努めている。また、ご本人様のお好きな食べ物の差し入れをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と連携を取りながら、ご友人などにご面会が行える環境を整えています。外出や外泊も自由に行えます。	面会制限は設けておらず、知人についても家族の了解のもとで面会を受け入れている。家族との外出や外泊も可能としており、これまでの生活や家族との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が会話をしやすいようリビングの席なども工夫しています。職員も介入し孤立せず皆さんが安心して過ごせる環境づくりを目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後もご家族様の精神的なサポートを行っている。ご利用中の様子が分かる写真をお送りしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居前の生活歴やご意向を伺った後も定期的にご本人のご意向等を聴き取りサービス内容に反映させています。	会話が可能な方も多く、日々の関わりの中で要望や意見を丁寧に聞き取っている。要望に応じて喫煙スペースを整備するなど、生活習慣への配慮も行っている。食事に関する希望についても可能な範囲で対応し、本人の意向を尊重した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様以外にも居宅の担当ケアマネージャーさんなどからも聴き取りを行いご本人の様子が把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間から就寝時間までの1日でどのような生活をされていたをご入居前に確認しサービスにつなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを実施しています。毎月の拠点会議でも必要に応じて支援内容の見直しを行っています。	定期的なモニタリングを実施している。家族の要望も確認しながらカンファレンスで検討を行い、必要に応じて医療者の意見も取り入れつつ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援内容や生活の様子を介護記録へ残しています。主治医やその他医療従事者とも情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者からのご希望に沿った個別支援やレクリエーションを職員が柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が主催しているお祭りなどへ定期的に参加しています。今年度は春日神社のお祭りや隣の講演で開催された芋煮会へ参加しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、薬剤師による配薬、週1回の訪問看護、週1回の訪問歯科を実施しています。ご体調により臨時的訪問診療の体制も整えています。	住診医が月2回、訪問薬局および訪問歯科が週1回、訪問看護も週1回来訪している。希望者には訪問マッサージも提供している。24時間の連絡体制を整え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて直接情報共有をしています。日々のご様子も医療・介護連携ツールを活用し情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を提出しています。入院先のソーシャルワーカーや看護師、リハビリスタッフ等と連携を取り退院調整を進めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様のご意向に沿った終末期ケアを実施しています。医療連携も密に行い施設でのお看取りケアも実施しています。	入居時に重度化や終末期の対応方針について説明している。身体状況の変化に応じて本人および家族の意向を確認し、希望があれば医療者と相談のうえ施設での看取りにも対応している。現在も看取りの事例があり、職員間で経過を共有しながら都度話し合いを行い、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応マニュアルを掲示し、夜間帯等の管理者不在時でも対応が行える環境を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施しています。災害時の連絡先や避難場所については掲示を行い、自治会の消防避難訓練へも参加している。	年2回、利用者も参加する火災訓練、水害訓練、夜間想定訓練を実施しており、そのうち1回は消防署立ち合いのもとで行っている。地域の避難訓練にも参加し、避難経路の確認を行っている。事業継続計画(BCP)を策定し、必要な備品を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者のプライバシーを確保しています。意思を尊重し、ご本人が望まないケアの強制は行わないよう心掛けています。全スタッフ対象に尊厳保持に関する内部研修も実施されています。	研修を実施し、一人ひとりのこれまでの生活歴や人柄の理解に努めている。その内容を日々の声掛けや関わりに活かしている。入浴時の同性介助体制を整え、排泄介助時にもプライバシーへの配慮を徹底するなど、尊厳を守る支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中からお本人の意向や希望を確認しています。日常生活の中でも、食べたいご飯の量や、好きな衣類の選択などご本人の意思も大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共用スペースで皆さんと談笑される方、居室にて読書や書道をされる方、スタッフやご家族様と外出する方など、可能な限り各々がその人らしく自由な生活が過ごせる環境作りを実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、訪問理美容にてヘアカットを行っています。ご家族と連携を取りその方の好みの衣類やシャンプー、化粧品等の持参も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器拭きなど出来ることはご入居者にも一緒に実施してもらっています。季節の献立やイベント食も充実しています。ご入居者よりご希望があれば調理レクなどを実施しています。	日曜はお楽しみメニューを提供している。利用者の希望によりお好み焼きを作ることもあり、可能な方には調理や盛り付け、食器拭きなどに参加していただいている。季節の献立や行事食も取り入れ、食事の時間が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分量の記録、一人ひとりに合わせた食事形態(常食～ミキサー)での提供、使用しやすい食器等の準備を行っている。毎日の喫茶の時間にはその方の好みに合わせた味のコーヒーやココア等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の食後の口腔ケアをさぼーとしていません。週1回の訪問歯科もあり歯の治療、義歯の調整などを行っています。毎食前には口腔体操も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄状況を把握し、その方に必要な排泄支援を実施しています。尿量や排泄回数なども記録し、適切な排泄用品の選定も行っていきます。	一人ひとりの排泄状況を把握し、適切なオムツやパットを選定している。移動が難しい方にはポータブルトイレを使用する場合もあるが、日中は可能な限りトイレでの排泄を基本としている。排泄状況を記録・共有し、適切な声掛けや誘導につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、運動のレクリエーションを取り入れています。水分量の観察やご家族様と連携を取り食物繊維豊富な果物などを持参していただくこともあります。ご体調により、主治医指示のもと便秘薬が処方されることもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の身体状況に合わせた入浴方法で週2回の入浴を実施しています。入浴前にはバイタル測定を実施し安全に配慮しています。体調不良や外出などの際は日時をずらして入浴することもあります。	週2回の入浴を実施している。状況に応じてシャワー浴にも対応している。好みのシャンプーやリンスを使用するなど、入浴が楽しみとなるよう配慮している。拒否がある場合には日時を変更するなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずその方のペースに合わせた支援を心掛けています。適した室温や寝具選びなどご本人が安心して就寝できるようサポートを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師と連携を取り服薬支援を行っています。介護職員はダブルチェックを徹底し安全に服薬支援が行えるよう心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽や運動、工作などお一人おひとりが得意であった好みのレクリエーションや個別支援を実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の隣には公園があり定期的に散歩を行っています。お花見や買い物などドライブを行うこともあります。一昨年より、敷地内に自販機を設置しご入居者や地域の方も使用できる環境を整えました。	隣接する公園への散歩やコンビニへの買い物など、外出の機会を設けている。テラスでの外気浴も行っている。敷地内の自動販売機で自ら選んで購入する機会もあり、生活の楽しみにつなげている。家族との外出や、春の花見ドライブも予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお財布を持ちお金を管理されている方もいます。自販機で飲み物を購入したり、コンビニやスーパーで買い物も行っていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されご家族様やご友人とお話しされている方もいます。ご希望があれば施設の電話もお貸ししています。ご友人と手紙のやり取りをされている方もおり、定期的にハガキの準備を施設職員やご家族様でサポートしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は毎日清掃、消毒を行い清潔な環境作りを行っています。皆さんが作成した季節の作品を掲示するスペースもあります。	共用部は明るくゆとりのある空間となっている。廊下にはソファを設置し、壁には季節の装飾や植物を掲示している。利用者が思い思いの場所で落ち着いて過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者同士の相性などにも配慮し、食事席の工夫を行っています。廊下にはベンチイスを配置し独りになれる環境も整えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具やご家族様の写真、テレビを設置するなど、ご自身が安心して過ごせる環境を整えています。室温調整や清掃等のサポートも行っています。	居室にはベッド、チェスト、クローゼットを備えている。使い慣れた家具やテレビ、家族の写真等を持参していただき、居心地よく過ごせるよう配慮している。清掃は職員が行い、可能な方には一緒に取り組んでいただきながら清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	これまでご自宅で行ってきた、清掃や食事の準備、洗濯などご本人ができることを大切にしています。その中で必要な支援を把握しサポートの努めています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(4)	運営推進会議への参加者が少ないため、実施方法の改善が必要。	ご利用者の生活の様子や施設の運営状況をご家族や地域の多くの方へ知っていただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設で提供している食事の試食会を実施する。 ・会議開催日に行事イベントを合わせ、ご利用者を見ていただく。 	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。